

支店長

入社以来、岩手を中心に東北各地を渡り歩いた。その多くの時間を現場で過ごした自称「現場屋」。最前線を経験する中、上司や先輩から技術・技能に関すること、仕事のノウハウなどを教わり、育てられてきた。個々人の能力・気持ちは同社の企業力を支えるとの思いを強く持つ。着任のあいさつで支店役員に対し、企業理念である確かなもの（J-IMPRESS）

NIPPPO東北支店長 松澤 洋氏



復興後見据え人材育成

人づくりに力を入れるよう指し示した。「復興需要で大変忙しくなっているが、5〜6年経つと震災前のようになる」とみており、仕事に追われる中で基本を見失わないようにとの戒めの意味を込めた。復興需要が落ち着けば、官庁工事が少なくなり、売り上げを確保するには民間の比率を高めしていく必要がある。こ

思い出深い現場は東北初の芝のコースをつくった盛岡競馬場の走路工事。芝の根を地面に活着させる未経験の仕事ということもあり、非常に苦労したと振り返る。趣味は山歩き。好きな言葉は「和」。

（4月1日就任、古川工業高校土木科卒、宮城県大崎市出身、60歳）